

# 古代から現代へ、そして未来へと続く道… 久米史跡マップ

制作 / 久米地区コミュニティ推進協議会「郷土の歴史を語り、学ぶ会」発行 / 2015年4月1日

久米地域には古くから人が住んでいて、たくさんの遺跡が残っています。この地域の史跡を多くの人たちに知ってもらうために、久米地区コミュニティ推進協議会が史跡マップを作りました。マップを片手に、古い久米を散策してみてください。また、新しい久米に出会い、いっそう好きになりますよ。



マップの裏面に、史跡の詳しい説明文を掲載していますので、合わせてご覧ください。

## 『久米』の地名の由来には2つの説があります。

**その① 神様に米を献上した事から**  
推古天皇の時代に遠石八幡宮が創建され、この村から御供米を献上しました。その供田が存在したので、供米(くまい)が久米(くめ)と呼ばれるようになりました。

**その② 祖先は久米部!**  
大化の改新の頃、この地域は久米郷(くめごう)と呼ばれ、久米部(くめべ)が治めていました。久米郷には現在の久米、譲羽、遠石、徳山、大島、花岡、末武中、末武下を含んでいました。そして久米部の居住地がここにあったため久米と呼ばれるようになりました。

【参考文献：老郷地郷土誌 久米百年史 周南地方史話 周南地方歴史物語】



古くから理へ、しつと来へと導く道...

# 久米史跡まつふ

## ～史跡詳細と解説～

### 久米の歴史

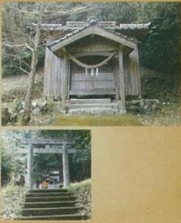
久米は弥生時代から人が住み、農耕を営み生活をしていました。大化の改新後は地方制度が定められ、都濃郡の下に久米郷が置られました。南北朝時代には南朝方の大内氏が北朝方の鷲頭氏を攻めるに当たり、陶弘政が城ヶ岡(遠野尾山または城山)に城砦を築き、久米地方はその戦場となりました。

江戸時代に入り、毛利就隆が野上へ移転して地名を徳山藩と改めました。この時、譲羽村は徳山藩となり、久米村は萩本藩に置られました。

明治維新の改革によって廃藩置県が断行され、周防と長州は山口県として発足しました。久米地区には久米村と譲羽村がありましたが、明治17年に二つの村が連合して久羽村となり、更に明治22年の町村制施行により、久米村と呼ぶようになりました。昭和17年に徳山市へ合併されるに伴い、久米地区と言うようになりました。

#### ② 滑河内大明神社

ある年に、この村に田万虫(たまむし)枯れが続き、村中が困っていました。そこで、滑と松ヶ甲(まつがこう)の両村が、この神社を祀(まつ)つて信仰してきました。年暦は不詳です。



#### ③ 譲羽河内神社

この神社は、かつて大水により土砂崩れが発生して御神体(ごしんたい)である30cmの鏡が、約300m川下へ流れ、川岸にある譲葉(ゆずりは)の太木で止まりました。そこでこの村を譲葉村(ゆずりはむら)と名付けたと言われています。後に譲羽村と改名され、神社も譲羽河内神社としました。



#### ④ 譲羽分校

明治6年に譲羽小学校が開校し、昭和17年に久米村が徳山市と合併すると、久米国民学校譲羽分校となりました。更に昭和26年久米小学校譲羽分校へと改称し、昭和29年に現在の校舎が建造されました。当初33名あまりの生徒数でしたが、平成19年には生徒数が2名となり、そこで休校することになりました。



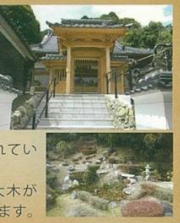
#### ⑤ 五郎の滝 (別名:白雲の滝)

昔、五郎と言う木こりが昼寝していると、クモの糸に巻きつかれ、誤って滝つぼに落ちて死んでしまいました。また、この滝つぼの水を汲み出し、滝つぼの周りで火をたくと雨が降るとも伝えられており、雨乞いの滝とも呼ばれています。



#### ⑥ 正覚寺

陶晴賢(すえはるかた)の家臣、光井藤三郎が蓮如上人(れんにょしょうにん)に帰依(きえい)して正覚の精舎(しょうじゃ)を建立(たて)し、以後念仏の古道場となったと伝えられています。宗派は浄土真宗です。境内の一角には「イブキ」の太木があり、周南市百樹に選定されています。



#### ⑦ 高善寺跡

昔、高善寺という寺があって、その寺跡だけが残っていました。この寺の境内の山に墓が数百ありましたが、ある年大雨により、残らず寺跡に落ちて土中に埋まりました。その後、亡魂(むたま)が人々に災をしたので、薬師如来を祀り、薬師庵を建てて供養をしました。それからは災がなくなったと言えられています。



#### ⑧ 久保堤

久保堤は275年前に久米市(くめいち)農民の嘆願(たんがん)によって築造されました。この堤は川水を分流して貯水し、また川へ放流するという大変珍しい仕組みのため池です。



#### ⑨ 上岡原古墳群日光寺遺跡

この遺跡は昭和60年に山陽自動車道建設に伴い、徳山東インターチェンジ予定地内を試掘調査したことにより発見されました。竪穴住居跡(たてあなじゅうきょあと)、土坑、溝などが発掘され、弥生土器のほか安山岩製の紡錘車(ぼうすいしゃ)が出土しました。



#### ⑩ 弘法大師地蔵菩薩

旅人が山代街道にある耳切峠(みみきりとうげ)の難所を無事越えることを願って約290年前に当時の追河内(今の老郷地)の住民によって造られました。



#### ⑪ 高善寺大師堂

弘法大師がこの地を訪れた時、五色の瑞雲(ずいうん)がたなびき薬師如来の尊像の出現をご覧になりました。そこで、大師は早速祈禱(きと)に使う水を求めて井戸を掘ったところ白い乳色をした水が湧きあふれたと言われています。現在弘法大師と薬師如来が大師堂に合祀(ごうじ)されています。



#### ⑫ 祇園神社 (天王様)

約450年前に村中に疫病が流行し、死者が多数出て、家族全員が死滅したところも数戸あったので、祇園神社を勧請し、約360年前に社殿を建立しました。それ以来難病が止んだので村中が信仰しました。最初に社祠が創建された場所は、森ヶ迫(今のひばりヶ丘)の御立山内の天王山という所にあつたと記録されています。



#### ⑬ 菅原道真公お腰掛の石

菅原道真公が京から大宰府へ左遷されて行く途中、風波にあわれたので、この近くの海岸(居守港)に船を留め、この地域を見て回られました。その折、久米天神山にも登られたこの石に腰を下ろして休息されました。道真公が大宰府へ去られた後、この石に毎夜光が輝くので村人が道真公に異変があつたと気づき、祠(ほこら)を建てて祀(まつ)つたと伝えられています。



#### ⑭ 久米神社

久米の鎮守様(ちんじゅさま)です。社宝は「菅公絵画像(かんこうえぞう)」と「萩藩根柢認書(はぎはんこんちしょういりになかしよ)」です。古くは岡野天満宮と呼んでいましたが、昭和17年に徳山市と合併したのを期に久米神社と改称されました。



#### ⑮ 久米天神山 (殿山)

大正9年(1920)、この天神山に忠魂碑を建立し、桜の木を植えました。これは久米唯一の景勝地であり眼下に徳山、下松港が眺望(たぼう)に望めました。また、この地が海拔88mの高さにあるので別名「88高地」と言われておりました。現在は天神山公園になっています。



#### ⑯ 向原1号古墳・2号古墳

1号古墳は、古墳時代の後期と思われ、直径8m、高さ2mで、内部は横穴式石室です。2号古墳は、1号古墳の東方約50mの竹林の中にあつて直径10m、高さ2mで、内部は半地下式の横穴式石室です。1号古墳同様、7世紀に建造された円墳です。



#### ⑰ 垣外遺跡

平成20年に発見された、弥生時代～中世にかけての遺跡です。弥生時代の集落跡や室町時代の建物跡など幅広い時代の遺構が確認されたほか、洪水によると思われる川砂に混入して多数の土器が出土しました。出土遺物には、土器類のほか石斧や石包丁、紡錘車(ぼうすいしゃ)[糸をつむぐ道具]などがあります。西光寺川流域には多くの遺跡が点在していますが、垣外遺跡もその一つです。なお、垣外とは久米の古い(旧)字名です。



#### ⑱ 文化堤 (別名:沢田堤)

久米村の水田は井手水による所が多く、このため干天には稲枯れの被害がたびたび出ました。約200年前花岡代官佐藤権兵衛の尽力により宿願の溜池を築造して農民の憂いを救うことができました。この工事の労役について村民は述べ3,550人余りと伝えられています。堤の北側にこの時の記念碑があります。今の広さは17,397㎡(5,272坪)です。この堤を、別名沢田堤とも言います。



#### ⑲ 真田幸晴の碑

真田幸村の庶子、真田幸晴は、大坂夏の陣により大阪城が陥落したので、再挙するため九州に下る途中、暴風雨にあいました。そのため舟を柳ヶ浜に寄せ、そのまま栗屋に居住して筆治職となりました。寛文6年(1666)、この地で病没したと伝えられています。院内の原江寺に石碑があります。



#### ⑳ 旧山陽道

昔からの主要道路である山陽道沿いには町が発達しました。見上坂から白見ヶ森までの旧山陽道では、至るところでほぼ昔の面影を忍ぶことができます。江戸時代には参勤交代の通り道になっていました。



#### ㉑ えびす様

えびす様は、一般に漁業と商売繁盛の福の神様で、七福神の一神として人気があります。七福神とは、えびす様の他に大黒・思沙門天・弁財天・福祿寿・寿老人・布袋様を言います。



#### ㉒ 平井荒神社

一般には荒神(かまどがみ)を荒神と呼びます。また、その地の田畑を開いた最初の人の霊を祀った地主神、山の神も荒神として信仰されています。この平井荒神社は平井村を開いた人の祖先を守り神として祀つたのが起りであると考えられています。



#### ㉓ 神輿御旅所

神輿巡行が久米神社を出発して御旅所で祭祀を行う所です。今の神輿巡行経路は、ここから下須川を通り老郷地を経て久米神社に戻ります。毎年10月の第三日曜日の秋の例大祭の時、神輿巡行を行っています。



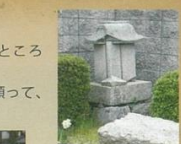
#### ㉔ 順正寺

年代は不詳ですが、古来より天台宗の源信流念仏の流れをくむ、常光山金光寺と称する寺が現在の旭ヶ丘団地にあり、約440年前、現在の地に移り、寺号を常光山順照寺と改め、浄土真宗系に転派しました。その後、順照寺を順正寺と寺号を改めました。



#### ㉕ 市えびす

市とは交易をする人の集まる場所です。宿や市には、繁栄とご加護を願って、えびす様が祀られました。



#### ㉖ 見上坂

久米村と末武村の境である坂本川と平行に屹(きつ)立する丘陵のあたりから三曲がりて高低差90mほどの坂がありました。馬が怖がるほどの急な坂で、馬に目隠しをして通行していました。別名三重ヶ坂(みえがさか)とも言われ、旧山陽道の難所と伝えられていました。

